

我が国の訪問看護のパイオニア宮崎和加子氏、北杜市で在宅支援を開始 看護・介護力で在宅死亡率日本一へ

一般社団法人だんだん会——山梨県北杜市

定年退職者の移住先としてクローズアップされている山梨県北杜市。自然環境に恵まれている反面、医療・介護資源に乏しい地域だったが、この状況が一変しようとしている。日本で訪問看護ステーションを初めて立ち上げた宮崎和加子氏が、訪問看護ステーションやグループホームを立ち上げたのだ。北杜市を在宅死亡率日本一の自治体にするという構想を伺った。

医療・看護・介護の過疎地域を一変させる事業をスタート

俳優の菅原文太氏（故人）の移住先で知られる山梨県北杜市は、人口4万7699人（2017年3月1日）。高齢化率は37%。山梨県の北西部に位置し、八ヶ岳・甲斐駒ヶ岳・金峰山などに囲まれている。山腹を流れる水は「日本名水百選」に選定され、名水の里でも知られている。日照時間が日本一であることも、北杜市の特徴だ。

こうした恵まれた環境に加え、都心から車で約2時間と交通至便な場所、近年では、首都圏の定年退職者などシルバー層の移住が増

えている。「おひとりさまの老後」の著者で東京大学名誉教授の上野千鶴子氏もその一人。北杜市に新居を建て、都内の自宅と往復する上野氏は、かつて移住先に考えていたカナタに例えて「北杜市は東京から2時間で来られるパンクバー」と評価している。

2016年1月、この北杜市に医療福祉業界の耳目が集まる出来事が起きた。訪問看護の

パイオニアで全国訪問看護事業協会事務局長の宮崎和加子氏が、還暦を迎えたことを契機に

移住し、一般社団法人だんだん会を設立。訪問看護や認知症ケアをスタートさせ、「医療・看護・介護の過疎地域」（上野氏）だった北杜市が様

変わりしようとしている。

だんだん会の理念は①富利を目的としない②地域住民とともに、地域に役立つ医療・介護・福祉をいねいに実践していく③誰でもが利用しやすいような配慮。サービス提供の対象者は

医療ニーズの高い要介護者、がん患者、認知症、重度障害の小児、精神障害者はもちろん、予

防的活動も実施する。



理事長 宮崎 和加子氏



北杜市の地域包括ケアの実現をめざし、一般社団法人だんだん会の船出に集った精鋭部隊!!

グループホームわいわい白州開設祝賀会の第1部では、北杜市白州総合会館で東京大学名誉教授 上野千鶴子氏が『大好きな北杜で最後まで!』をテーマに記念講演。座談会では上野氏の進行のもと、北杜市介護支援課課長 三井ひろみ氏、白州診療所所長 武田盛夫氏、だんだん会理事長 宮崎和加子氏が『できること・足りないこと』をテーマに北杜市で最後まで自分らしい暮らしが続けられる可能性について意見を交換した。用意された椅子が足りなくなるほど多数の市民が参加。最後まで安心して北杜に暮らせるという宮崎氏の力強い言葉に、参加者は安堵し笑顔がこぼれた。終了後は上野氏との名刺交換、記念撮影に列ができた。



主な事業は「グループホームわいわい白州」

(17年4月入居開始。2ユニット・入居定員18名、認知症カフェやアロマセラピーを提供する「サロンだんだん」(16年11月開設)、訪問看護ステーション「地域看護センターあんあん」(17年2月開設、居宅介護支援事業所「ケアマネセンター」(17年夏開設予定)。さらに北杜市周辺の住民や事業所従業員の健康増進や認知症介護、在宅での終末期ケアに向けて医師・保健師・看護師・介護福祉士などの専門職紹介も行なう。職員は移住者を含め22名を雇用している。

非営利性を担保するため 一般社団法人を設立

宮崎氏は当初から北杜市での事業展開を考えていたのではない。きっかけは移住だった。

「60歳になって生き方を変えようと思い、移住先を全国で探したのですが、都内の自宅に住む夫が現役で働いていることや、私が都内の仕事を持っていることから、都内から2時間圏内を基準にしました。さらに、私は山が好きなのですが、日本百名山のうち9つの山が見えて、八ヶ岳の南麓にある北杜市を選びました。4年前に私の好きなように設計して小さな家を建てました」



16年3月、還暦を迎えた宮崎氏は、全国訪問看護事業協会の事務局の仕事を

次世代に託して退職した。「古い世代の考えを若い職員に押し付けるようなことがあつてはいけない」と考え、潔く身を退いたのだ。終の棲家を構えた北杜市で何をやるか。

この地域のケアサービスを充実させようと決意し、北杜市役所を訪問して介護保険事業計画などを見たら、すでに訪問看護事業所や看護小規模多機能は稼働していた。ニーズがあるのに不足していて、自分が手が付けられるサービスを検討したところ、グループホームの不足が分かった。宮崎氏は東京で6カ所・9ユニットのグループホームを立ち上げた実績を持つ。

その後、北杜市でグループホームの公募が発表され、応募に必要な法人格として、非営利性を担保するために株式会社でなく一般社団法人だんだん会を設立した。法人経営の大きな決め手は役員構成だが、だんだん会の役員は強力な布陣で固められている。

理事に森真由美氏(元東京都医療公社多摩北部医療センター院長、八巻和彦氏(早稲田大学商学部教授)、武井幸穂氏(元健和会副理事長)、中嶋登美子氏(元北杜市介護支援課長)(16年9月より)。監事には石黒秀喜氏(元厚生労働省大臣官房参事官)が就任。「北杜市と縁があり、北杜市を愛している

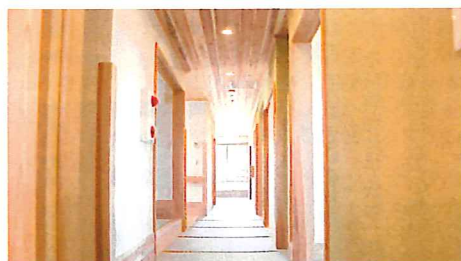
方々」(宮崎氏)で構成した。

北杜市の在宅死亡率を 13%から25%へ

16年3月に北杜市からグループホーム委託の決定を受け、補助金と福祉医療機構からの融資と基金で約1億9000万円の開業資金を賄って発足させた。だが、職員と利用者を獲得できるのか。この心配は杞憂だった。ほどなく定員近い利用者を獲得でき、「絶対に集まらないと言われていた」(宮崎氏)職員も、初期メンバーとして18名の介護職が集まった。やや多めの人数だが、「私のやり方は徹底した自立支援を行うために、手厚い体制を固めたのです」。

一方、看護職は人件費を賄える見込みがなかったため募集しなかったが、ホームページを見て「看護の仕事は何かありませんか」「意気込みを感じたので働きたいのですが」。そんな問い合わせが相次ぎ、5名を採用した。

5名の看護師が揃えば、訪問看護ステーションを開設できる。また開設しなければ人件費を捻出できない。幸いに5名とも高い志と熱意を持ち、優れたスキルの持ち主だった。宮崎氏は訪問の開設に加え、グループホームで医療ニーズの高い人を受け入れる方針を固めたのだ。



ちょっと大きめの2階建ての家(1ユニット)が2軒つながっているグループホームわいわい白州は、北は八ヶ岳、東は茅ヶ岳など、南は鳳凰三山・甲斐駒ヶ岳に囲まれ眺望抜群。中に入ると木のぬくもりと素朴でシンプルなデザインに癒される空間となっている。割烹のような畳の廊下。各部屋のドアにあしらわれた北杜の自然をモチーフにしたステンドグラスは一部透明になっており、さりげなく利用者を見守ることができる仕様となっている。



ホームを募集したところ、だんだん会が応募した。「陰ながら見守っていたの

第2部の記念式典はわいわい白州建物横、先々は利用者が野菜などを作る畑になるスペースが会場となった。北杜市長 渡辺英子氏をはじめ来賓の挨拶、開設にご尽力いただいた方々への感謝状の授与が行われた。だんだん会のやる気と情熱に満ち溢れたスタッフの挨拶と紹介がされると、参加者から沸き立つような拍手が広がった。

「私は訪問看護ステーションで夜間対応もなしていますが、人口が少ない地域なので、一人ひとりといいねに接することができています。これが一番ありがたいことです。60歳を過ぎると大規模な法人の仕事は難しくなります。勘違いが増え、思い込むようになり、押しつけるようになってしまう。その点小さなサイズの法人だと、利用者さんと直接関わって、喜びも悲しみも直に感じられるので、すごく良いことだと思います」

宮崎氏は地域の範囲を自宅に限定せず、サービス付き高齢者向け住宅、有料老人ホー



支援課長就任時に介護保険事業計画を策定し、

だんだん会理事・地域コーディネーターの中嶋登美子氏は、16年3月に北杜市役所を退職し、16年9月に理事に就任した。北杜市介護

自分の生活を自分で決めることをサポート

宮崎氏は、だんだん会を医療ケアと日常生活支援のフロアで構成した「看護介護法人」と自負している。

「これからは要介護・要医療の人の暮らしを生活の場で支え、時々入院して医療を受けていただく体制が大切になってきます。私は地域内支援力と呼んでいます。生活の場での支援のあり方と力量が問われるようになり、決め手になるのは看護職と介護職の量と質です。看護職は医療ケアと日常生活支援のフロア、介護職は日常生活支援のフロアです」

小規模多機能型居宅介護、看護小規模多機能居宅介護、グループホーム、特別養護老人ホームも「生活の場である地域」と捉えている。



わいわい白州ホーム長 山下 健一氏

「例えば認知症カフェに関わる市民の皆さんが、他でもカフェを開設できるように自主的な動きを育て、サポートしていきたい。また、だんだん会の理事は素晴らしいキャリアを持っているので、セミナーなどを開催し市民への情報提供や、情報を得た市民が考え行動できる機会をつくっていききたいと思っています。また職員が介護の仕事を選んでよかったと実感できる職場環境づくりも、私の任務だと受け止めています」(中嶋氏)

ですが、宮崎理事長に惹かれて入職しました。予防にも力を入れて、高齢者だけでなく、人の一生をサポートしていきたいと考えています」(中嶋氏)。主な担当業務は行政との折衝、だんだん会と地域住民との橋渡し、市内の介護事業者やケアマネジャーとの連携などだが、訪問看護にも従事している。



写真右側、グループホームわいわい白州の居室にはトイレや流しが設置され、浴室も自宅に近い環境で自立支援を促す工夫がされている。写真中央は一般社団法人だんだん会本部の建物の外観。訪問看護ステーションの地域看護センターあんなでは、看取りなどスタッフが熱心にカンファレンスを行い、最善のケアに努めている。サロンだんだんでは地域の住民が集い、生きがいづくりの各種講座や介護予防活動が活発に行われている。

第3部の祝賀会には宮崎理事長の人脈の広さで全国各地から、業界関係者がお祝いに駆けつけ、回ってくるマイクにそれぞれお祝いの言葉を述べた。お酒やワイン、そしてとびっきり美味しい料理、歌やハーモニカ演奏などの余興、出席者は事業のスタートを共に祝い、楽しいひとときを過ごした。



病院、山梨大学病院、隣県の諏訪中央病院などの医療連携室に挨拶を重ねた。

ブホームの新規開設に従事していた。その後

2012年に東日本大震災の復興支援に関わるために退職し、岩手県大槌町に移住し、17年1月までNPO法人に所属して仮設住宅の生活支援を行っていた。この間、現地での講演を宮崎氏に依頼した時に、だんだん会の構想を聞き、入職した。

「これまでグループホームで行なってきた経験とリンクしますが、わいわい白州では、自分で行なうことは自分でやるという自立支援が職員の役割です。自分の生活を自分で決めることをサポートしていきたいと思っています」

重度者を積極的に受け入れ「自分らしく生ききる人生」を支援



主任看護 樋川 牧氏
師の樋川牧氏は山梨県出身。山梨県内の一般病院で病棟看護師として10年働いたのち、都内の病院で2年、その後訪問看護ステーションで8年働き、書籍編集を通じて宮崎氏と面識を得る。だんだん会の話を知り、「そろそろ地元に戻ってもよいかな」と判断して入職した。

地域看護センターの発足に際しては山梨県立

地域看護センターあんなんの目標は「自分らしく生ききる人生」の応援団として最高の支援をする」。樋川氏は抱負を次のように述べる。

「都内の訪問看護ステーションに勤務していた時にターミナルのがん患者さん、難病の子供、ALS患者さんなど重症の方の看護を経験してきたので、どんな重症者でも受け入れられると思います。北杜市の人が病院から在宅に戻すために、ここなら任せられるなと思うていただけるステーションを目指します」



主任看護 西室 徳子氏
師の西室徳子氏も山梨県出身である。青年海外協力隊で海外勤務を経て自治体病院に赴任したのち、山梨県内の自治体立の訪問看護ステーションに13年勤務。所長も務めた。その後、北杜市の看護小規模多機能勤務を経て、訪問看護ステーションの立ち上げを検討していた時に、宮崎氏から声がかかって入職した。

「理事長は何でも話しやすい人で、話したときには全体的に確に返してくれました。しかも皆を元気にしてくれるキャラクターを持っています。若い看護師が「あんななら楽しく働ける」

と思ってくれるようなステーションを目指します。24時間365日体制で、多職種が絡み合うて重度の方の在宅ケアを支援していく方針ですが、北杜市の人口を考えれば取り組みやすいのではないのでしょうか（西室氏）

だんだん会の17年度事業計画は、重点課題にわいわい白州運営の安定化、認知症カフェ「オレンジサロン」の定着、訪問看護事業の事業推進、さらに可能な事業の具体化。わいわい白州では、開設時に入居者18名・職員17名。職員を定着させ、自立支援の方法で入居者支援のスキルアップができるように研修を実施。カンファレンスも充実させて、家族や地域住民とともに作り上げていくグループホームを目指す。

政策ファーストでなく住民ファーストを実践

あんなんは、開設1カ月目の17年2月に利用者総数7名、延べ訪問回数49件、指示書発行医療機関数5件（医師数7名）、在宅看取り1名の実績だった。17年度前半に収支を安定させる方針だ。認知症カフェ事業ではオレンジカフェ白州および長坂の2カ所を4～5月に開設し、他のサロン活動は17年度後半に検討する。

さらに「地域介護センターにここ」（訪問介護事業）と「定期巡回くまぐま24」（定期巡回随時対応）を開設する。定期巡回は北杜市の公募に応募し、選定され、17年10月に事業を開始予定。17年度後半には「ケアマネセンタールはぐはぐ」（居宅介護支援事業）を開設す

る計画だ。地域から要望されている認知症デイサービスの開設も視野に入れている。

宮崎氏は「国が進める地域包括ケアシステムや丸ごと共生地域づくりなどの動きを承知しながらも、政策の先取りではなく、真に地域住民にとって必要なことを実現したい。国の政策ありきではなく、自主が活動の基本です」と強調する。いわば、政策ファーストを第二義とするような制度事業とは違い、あくまで住民ファーストの地域作りに徹していく。だんだん会の事業が進捗するにつれ、北杜市への移住者は一段と増えるのではないだろうか。

（文／小野貴史 写真／片山千永子）

*上野千鶴子氏のコメントは2017年3月20日に一般社団法人だんだん会が開いたシンポジウムでの発言。

◆Information

一般社団法人だんだん会

〒408-0001 山梨県北杜市高根町長澤2412-1

TEL 0551-45-9566 FAX 0551-45-9568 URL <http://dandankai.com/detail/>

【事業内容】

- 「地域看護センター あんなん」
- 「サロンだんだん」
- グループホーム「わいわい白州」



VisionとStrategy 戦略

医療・福祉経営の新時代と人財を創る

私のVisionと経営戦略

一般社団法人だんだん会 理事長

宮崎 和加子 氏

特集

「2017年臨時介護報酬改定と 新処遇改善加算への対応策」

～キャリアパスⅢ要件の完全対応と

新介護処遇改善加算を生かした処遇改善と定着対策～

Part 1

インタビュー 「2017年介護報酬改定施行と新処遇改善加算への対応」

Part 2

ダイジェスト 「臨時介護報酬改定実施に向けたキャリアパスⅢ要件の算定実務」

Part 3

「平成29年度介護報酬改定に関する Q&A」

医療福祉経営最前線

一般社団法人だんだん会

(山梨県北杜市)

セミナー案内掲載

2017 5

保健 医療 福祉サービス研究会